

赤野井水田水路へ放流したホンモロコの追跡調査

米田一紀・岡本晴夫・磯田能年・大植伸之

1. 目的

琵琶湖南湖の水産資源の再生をめざして、守山市赤野井地区の水田より、ホンモロコの稚魚（全長 20mm）の放流が実施されている。水産試験場ではこの事業で放流された種苗（以下、赤野井放流魚。全数標識）を追跡調査することで、増殖促進効果を検討している。本項では令和 2 年度に放流した赤野井放流魚（522 千尾放流）の追跡調査の結果を報告する。

2. 方法

① 南湖での分布調査：6 月 17 日～9 月 4 日の期間に計 7 回、赤野井湾内の 7 地点においてビームトロール網による採集調査（以下、ビームトロール調査）を行った。また、3 月～7 月の期間、南湖の東岸 3 地点（草津市下物町地先、下寺町地先、志那町地先）に設置されたエリにおけるホンモロコの採捕状況調査（以下、エリ調査）を行った。

② 北湖での分布調査：冬期（1～2 月）に北湖での漁獲魚（沖曳網）の標識調査を行った。

3. 結果

① ビームトロール調査では、ホンモロコ稚魚は 586 尾採捕され、うち 73 尾が赤野井放流魚であった。8 月 4 日の調査以降のホンモロコ稚魚の採捕尾数は 10 尾以下で推移したことから、7 月末までに稚魚の多くが赤野井湾

外に移動したと考えられた。

エリ調査では、6 月上旬から稚魚が確認された。得られた稚魚 11,872 尾のうち 8,212 尾について標識確認を行ったところ、赤野井放流魚は 414 尾確認され、赤野井放流魚の割合は 4.8%となった。この割合は昨年度以降低下しているが（図 1）、これは南湖におけるホンモロコ稚魚の資源量が令和元年度に急激に増加したことが要因であると思われる。

② 冬期（1～2 月）の沖曳網漁獲魚のうち当歳魚 4,220 尾を調査したところ、赤野井放流魚は 54 尾再捕された。10 月に別途標識放流した種苗との再捕率の比から、生残率は 39.4%と推定された。赤野井放流魚の生残率は、他の南湖での放流魚と比較すると、平成 27 年度以降は高い値を維持している（表 1）。この理由のひとつとして、赤野井湾での外来魚集中駆除により、放流直後の捕食による減少が抑制された可能性が考えられる。

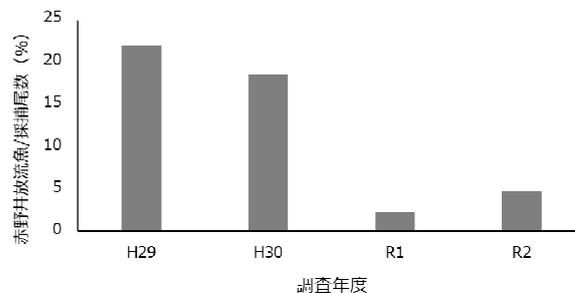


図 1 エリ調査において、採捕個体のうち赤野井放流魚が占める割合の推移

表 1 南湖への放流魚および赤野井以外の水田流下魚（主に北湖に放流）の秋期までの生残率

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	平均
赤野井		1.9	10.8	13.7	20.2	39.9	12.8	39.4	19.8
草津市下笠沖	1.7	0.2	0.2	0.9	4.3	1.5			1.5
赤野井湾沖					4.3	7.3			5.8
その他水田流下	12.9	13.2	11.6	31.0	9.7	24.7	21.5	35.0	20.0